

一般調査報告書

リスボン観光見本市(BTL)における観光PRと訪日予定者等へのインタビュー

ポルトガルにおける最大の観光見本市「BTL」が2月23日から27日までの5日間にわたってポルトガル市内の国際展示場で開催されました。(この国際展示場は1998年に開催されたリスボン万博の会場を転用したものです。)

このBTLは政府・自治体の観光局の参加が多いことが特徴で、出展者の41%を占めています。来場者は約7万人に上り、うち39%が観光事業者で、残りの61%が一般の入場者です。出展者の地域別内訳は、アフリカが17%、南北アメリカが31%、アジアが9%、欧州が43%です。

今年のテーマは「The World in Transit」です。

ポルトガル国内／国外で分けられた各パヴィリオンでは、各ブースが競うようにそれぞれの観光地としての魅力をアピールしていました。併せて食文化、音楽、ダンスなどを紹介する大小のイベントが開催され、大いに来場者の注目を集めていました。(ポルトガル人は「夜更かし好き」なので、これらのイベントは夜11時まで続きます!)

日本ブースは在リスボン日本大使館が中心になって設置したブースです。ここで5日間の会期中に来客の名前を漢字で書く書道パフォーマンス、浴衣の着付け体験、和紙を使った折紙講座、さらには日本のマンガ等をテーマにしたコスプレショーなどのさまざまなアクティビティが行われ、大いに人気を博しました。折からの欧州における日本のポップカルチャー人気にこうした魅力的な取り組みが相まって、日本のブースは他国のブースよりも際立って来場者が多かったように思われます。

愛知県パリ産業情報センターでは、この日本ブースのなかに愛知県デスクを設けさせていただき、日本の中心部に位置する物づくりの街、歴史の街としての愛知県をアピールしながら、中部地方、特に岐阜県・富山県・石川県への縦断ルート、愛知を挟んで静岡県・三重県をたずねる横断ルートの案内を中心に行いました。この結果、用意した1000部のパンフレットが閉幕を待たずに品切れになるなど、大きな反響をいただきました。

今回の出展では、訪問者の中でも特に日本に興味のある方や、日本への旅行を具体的に計画中的の方々、あるいは既に訪問した経験がある方々にインタビューし、愛知・名古屋をアピールする一方で、旅行計画(経験)の具体的な内容、日本の魅力、訪れたい観光地／印象に残った観光地などについてのお話を伺いました。

今回のレポートではそのインタビューの結果を報告します。外国人観光客から見たニッポン、中部地域、愛知県を考える際の参考になれば幸いです。



マリア・フェルナンデスさん

6年前に日本に行ったというマリア・フェルナンデスさん。小学校の先生だそうです。東京、大阪、京都、金沢、広島、宮島を訪れたそうです。このなかでは京都が最も印象的だったと話してくれました。残念ながら日本向けツアーを取り扱うエージェントがポルトガルにはなかったため、フランスのエージェントが企画するツアーに参加したそうです。東洋のイメージ全般が気に入っているという彼女の日本のイメージは、安全で秩序が保たれた社会だそうです。名古屋を御存知かどうかお尋ねしてみると、先の訪問ではセントレアを利用したとのこと。その後、すぐに大阪方面に向かったために名古屋では観光はしなかったものの、セントレアを利用したこと、ちょうどそのとき愛知万博が開催されていたので名古屋の名前だけは憶えているとのことでした。今は具体的な旅行計画はないとのことでしたが、ぜひ日本・愛知をあらためて訪問していただくよう、お勧めしました。



アナ・フィリッパ・コエリョさん

大学で日本史を勉強して以来の日本ファンだというアナさん。織田信長、豊臣秀吉も知っていました。この関係で、愛知・名古屋も御存知でした。現在、映画文化論で博士論文を執筆中とのこと、小津安二郎の大ファンでもあるとのことでした。そのアナさんは、昨年8月、念願だった日本旅行を実現させたそうです。12日間で東京、京都、高野山、広島、宮島、大阪、日光、鎌倉を訪ねたそうです。驚くべきことに、この行程をすべて個人で予約・手配し、友人と二人だけで回ったとのこと。寿司、ラーメン、そばなど、あらかじめリストアップしておいた日本食すべてにトライしたそうです。しかも、全予算は一人あたり2500ユーロ。旅行上手かつやり繰り上手な彼女です。博士論文が書き終わったら、桜のシーズンに日本に行きたいとのこと。また、この際には、ポルトガルと日本の接点となった長崎・種子島を訪ねたいとのことでした。



マリア・アジス・ヌネスさん、アントニオ・フォンセザ・ヌネスさん

80歳代のお二人は、2年前、教員組合が企画したグループツアーに参加して日本を訪問されたとのこと。(マリアさんはかつて小学校の先生だったそうです。) 15日間で東京、大阪、伊勢、宮島、京都、奈良、広島、宮島、長崎を訪問されたとのこと。このときのツアーオペレーターは、ブラジル系の企業だったとのこと。最も印象的だったのはマリアさんが東京で、アントニオさんには宮島だったそうです。そもそも、マリアさんが世界的な大都市である東京を訪問したくて実現させた旅行だったとのこと。アントニオさんにとっては、畳の上にお布団を強いて寝たのがうれしかったそうです。世界中を旅したお二人ですが、いつも食事には苦労すること。日本でもイタリアでもフランスでも、ツアーで出される食事が口に合わなかったそうです。ポルトガル人の皆さんは魚料理が好きなことで有名なので、日本の焼き魚・魚の天ぷらなら大丈夫だと思います。特に今回の訪問では、ポルトガルから日本にもたらされた天ぷらで日本の魚を試していただくようお勧めしました。併せて、名古屋の「ひつまぶし」もPRしました。



ユージニオ・マルティンさん、エテルヴィナ・アドルフォさん

4月半ばに日本を訪問するので情報が欲しい、と言って日本ブースをお訪ねになったお二人です。上海からのクルーズで、プサン、沖縄・神戸・大阪・東京をお訪ねになるそうです。上海、東京など、アジアの大都市を訪問したくてこのクルーズに参加するそうです。終着地の東京では4日間をまったく自由に過ごしたいと考えており、そのための情報などを集めているそうです。マルティンさんによると、難しいのはホテルの情報で、日本のホテルがどんどこるかまったくイメージを持っていないので、インターネットだけではとても不安だそうです。ポルトガルには日本の旅行代理店がないので、お隣のスペイン、マドリードにある日系の旅行代理店に相談することをお勧めしました。



ペドロさん

大学でエンジニアリングを研究しているペドロさんは、6月に静岡で開催される学会に参加するために日本を訪問するそうです。そのための情報を集めに、BTL日本ブースを訪ねていらっしゃいました。今回が初めての日本訪問であり、ぜひ日本の伝統的な文化を見てみたいとのことでした。静岡県に1週間滞在されるとのことでしたので、中部広域観光推進協議会の作成したパンフレットをお見せしながら、説明しました。ペドロさんに

とっての最大の不安は案内表示が理解できるかどうかであるとのことでしたので、主要な駅では英語表示もある旨をお伝えするとともに、指差し会話集もお渡ししました。また、東京で過ごす予定のフリーの2日間ではぜひ伝統性と先端性の両面を見てみたいとのことでしたので、浅草と新宿をお勧めしました。また、日本食がどんなものなのか経験するのも楽しみとのこと、まずはリスボン市内にある日本食レストランに行って「情報収集」をしたいとおっしゃっていました。

アナ・カルアリオ・マルケスさん

3週間後に日本を訪問するというマルケスさん。驚いたことに、航空券のほかには何にも予約・手配をしていないそうです。行き先もこれから決めたいとのこと、そのための相談をするためにBTL日本ブースをお訪ねになりました。彼女の訪日の動機は、「日本を訪問した友人が日本の風景のすばらしさを褒めちぎったから」だそうです。その彼女の訪日旅行のテーマは日本縦断で、北海道、東北地方の太平洋側、日光、東京、長崎、大阪、京都、高山を訪ねるのだそうです。



ここで私が東西を入り交ぜて紹介したのは、彼女が夜行列車やローカル線を使ってこの順番で訪問することを考えていたからです。彼女が予定する10日間の滞在期間では一見不可能であるかのように思えますが、彼女の友人はちゃんとこれを実現し、しかも日本の風景を堪能したとのことでした。夜行列車等については寝台列車であれば予約が必要であろうこととお伝えするとともに、ホテルも観光地であればなおさら予約がないと泊まれないことを説明しました。より確実に行程を確保するため、マドリッドにある日系の旅行代理店に相談することをお勧めしましたが、まずはインターネットで自力で、とおっしゃっていました。

愛知県海外産業情報センターでは外国企業の誘致に取り組むとともに、貿易引合情報の収集・提供、投資環境調査、経済動向等各種の情報収集、中小企業の海外活動の支援などを行うほか、外国人観光客の誘致にも積極的に取り組んでいます。